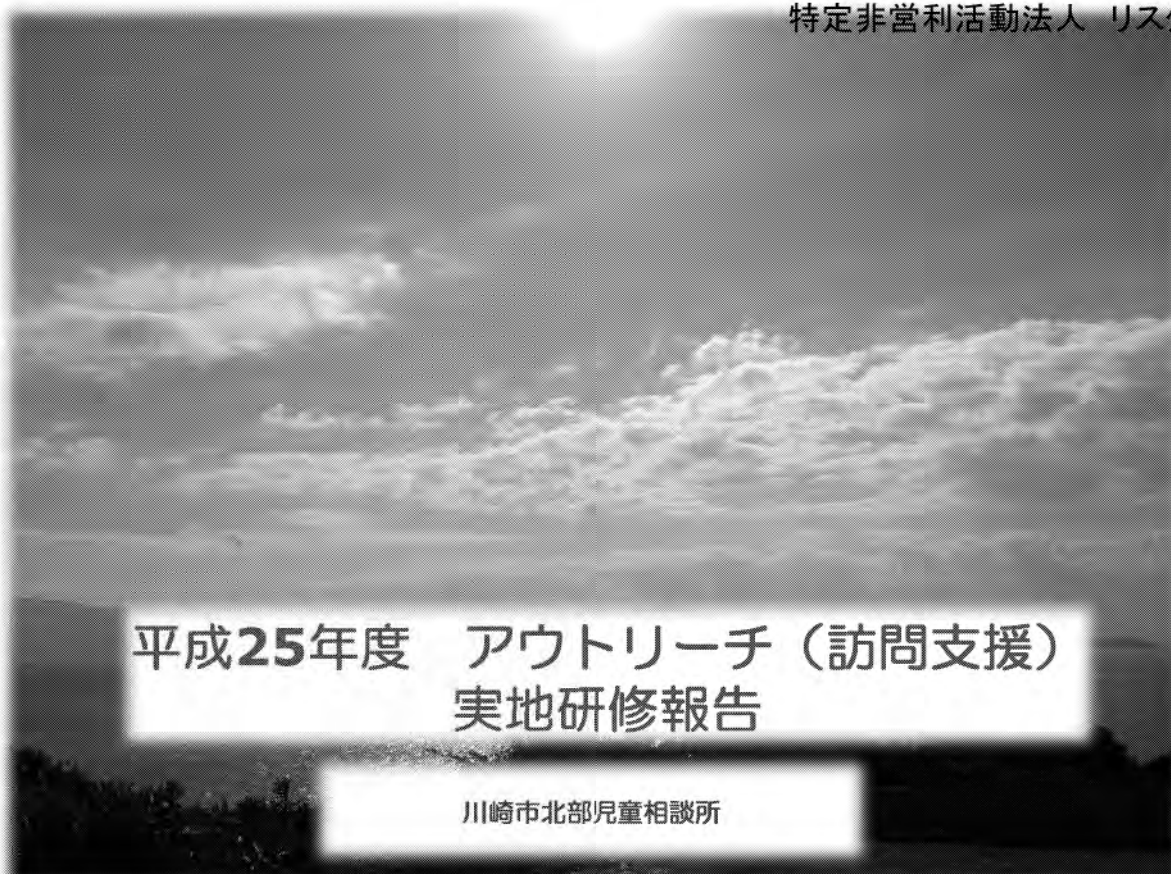


今回の実習を通して学んだこと

③その他

- ・「当事者とともに生涯同行する」という覚悟ができた。
- ・ひきこもり者たちを寮・アパートで生活させ、自活の支援を行うという手法に、大きな可能性を感じた。自分の仕事として何かできないか考えていきたい。
- ・リスタートと今後もつながりをもっていたい。理事長にはアウトリーチについてのSVや講演などをお願いしたい。

研修生^⑤
特定非営利活動法人 リスタート



平成25年度 アウトリーチ（訪問支援）
実地研修報告

川崎市北部児童相談所

0. アジェンダ

- ▶ 1. 受入団体
- ▶ 2. 研修内容
- ▶ 3. 所見

- ▶ <受入団体> 特定非営利活動法人「リスタート」
- ▶ <研修期間> 平成25年11月18日～29日（10日間）

1. 受入団体（1/2）

- ▶ 特定非営利活動法人 リスタート @岡山県

- ▶ 平成8年度 不登校・ひきこもりの児童や青少年に対する支援を開始。

- ▶ <支援内容>

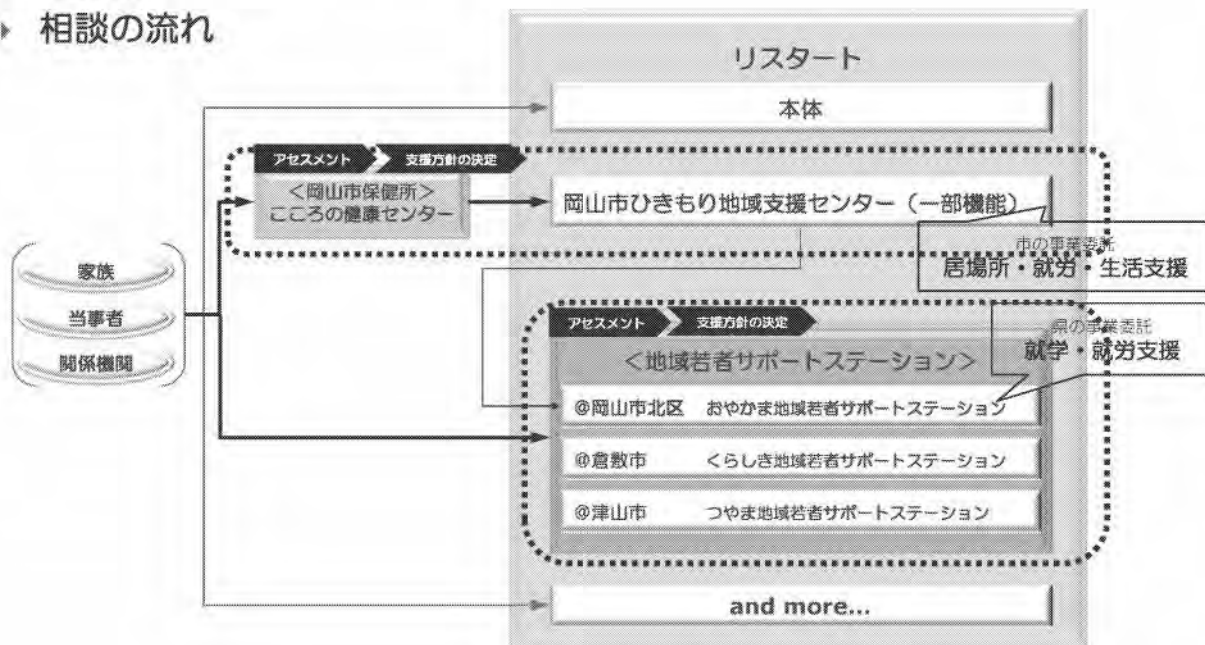


寮生支援 集団支援 短期集中支援 訪問支援

寮生支援： 女性寮1軒／男性寮5軒（各寮3-4名）

1. 受入団体 (2/2)

- ▶ 組織図
- ▶ 相談の流れ



2. 研修内容 (1/3)

- ▶ おかやま地域若者サポートステーションにて主に実地研修 @岡山市内

- ▶ 各種プログラムの見学



2. 研修内容（2/3）

▶ アウトリーチ（訪問支援）とは

▶ <アセスメント> ～ドアオープン前

- ▶ 経路：「母親」はキーマン。家族理解を得る。
- ▶ 場所：自宅だけでなく「居場所」へ訪問する。ex.コンビニ,図書館,学校
- ▶ 効果：訪問者は「風」となり得る。（接触なくとも、訪問の声,姿,音だけでも効果あり。）
- ▶ 介入：自室は「逃げ場」or「お城」？第三者への加害の有無？

▶ <支援過程> ドアオープン後～



- ▶ 「同行二人」・・・依存させるのではなく、生涯同行する。

2. 研修内容（3/3）

▶ アウトリーチ（訪問支援）とは

▶ <ピアサポート>

...不登校やひきこもりの当事者から訪問支援者へ...

支援スタッフ2名との座談会

※いじめ,不登校,大学中退,ひきこもり等の経験あり

積み重なっていった。
完治せず、ぶり返す。
完治を目指さず、
付き合っていく術を
身につけていく。

自分から（社会を）
拒絶していたけど、
さみしい気持ちとか
必要とされたい気持ち
もあった。

電話1本かけるか
かけないかで、
人生がこんなに変わる。

- ▶ 相談の契機：年齢,父親の定年退職,母親の病気 等
- ▶ 支援の特徴：自己紹介から、支援者の情報（経験や興味）を多く出す。同じ目線。

3. 所見（1/2）

▶ ピアサポートについて

▶ <意義>

- ▶ ひきこもり経験を積極的に自己開示する。支援への活用。
 ▶ ひきこもり経験が社会資源へ

▶ <課題>

- ▶ 現支援者として... ピアサポーターのフォローアップ
 - ピアサポートの体系的な支援技術や研修制度の確立
- ▶ 元当事者として... ピアサポーターのアフターフォロー
 - ピアサポーターのキャリアプラン、ライフプラン

3. 所見（2/2）

▶ アウトリーチについて

▶ <支援の本質>

- ▶ ひきこもり特性は「生涯特性」との社会的認知
 - 就学就労支援に狭義せず、社会的居場所へ参加できる生活支援を
- ▶ 早期発見・早期介入・早期支援
 - 任意相談を「待つ」支援から第三者によるアウトリーチへ

▶ <支援の役割>

- ▶ 主担当機関が一元管理。アセスメント、リファー、クローズまで、地域継続支援の徹底。

